



丸太型巣箱の製作。材料には、材質が軽く、活動地にも生育するサムトゥクの木を利用した。内部を筒状にくり抜き、外側下部に入り口（巣門）を作った。



丸太型巣箱の設置。雨がしみ込んで内部にカビなどが生えないよう、雨よけとしてプラスチック板を使用した。（ハトゥカデ集落）



木材を使った重箱式巣箱の設置。風で飛ばされないよう、巣箱を日陰樹に紐で括りつけている。（ハトゥカデ集落）



丸太型と重箱式の巣箱設置。地面に直接置くとアリが入るなどの被害があるため、石を積んで若干高くしている。（ルスラウ集落）



「山間部農民の生計向上事業（東ティモール）２年次」

添付書類①【事業内容、事業の成果に関する写真】

(イ) 養豚の技術改善と経営改善



養豚の技術改善、経営改善ワークショップ。従来の飼育方法との相違や、給餌方法などについて参加者の意見も汲みながら実施した。



給餌方法の改善指導。以前はクズイモなどをそのまま豚小屋に投げ入れているだけであった。細かく切り食べやすいように指導した。



細かく切った餌を調理。火を入れることで消化が良くなり、豚の成長を促すことができる。



火入れ後の餌を餌箱に入れ、豚に与えた。これまでは豚舎内は餌と糞尿が混じり不衛生であったが、餌箱の設置により、豚舎内の衛生環境も改善することが出来た。



鶏糞配布。事業参加者リストを確認しながら、きちんと受取ることが出来るように現地スタッフが対応している。



事業参加者と共に、各世帯２袋ずつ配布した。



「山間部農民の生計向上事業（東ティモール）2年次」

添付書類①【事業内容、事業の成果に関する写真】

（ウ）薪に代わるエネルギーを家畜の糞から得る仕組みとして養豚と結びつけたバイオガスプラントの導入



モデルプラントの設置（ハトゥカデ集落）。雨や日差しからプラントを守るため、茅葺きの屋根を取り付けた。



バイオガス原料の家畜糞。ガスが発生しやすいよう牛糞を利用し、水と混ぜ合わせてプラント内へ投入した。



原料投入約1か月後のバイオガスプラント。発酵が進み、ガスが発生したため大きく膨らんでいる。



発生したガスを貯留するガスバッグ。ガスが充満して、大きく膨らんでいる。



バイオガスの炎。ガス栓を開けて火を付けると、勢いよく燃え上がった。ガスが十分に発生したため、長時間火の勢いが持続した。



ガスを使ってお湯を沸かす。薪を使わないで調理することでき、大変興味深いという声に参加者から上がった。